

後十五番歌合

一番

實方

又月夜とてうらたけの影はつらうもさかすまの

道信

あきとらけの影はつらうもさかすまの影はつらう

二番

馬内侍

こよひの影はつらうもさかすまの影はつらう

和泉式部

くさねの影はつらうもさかすまの影はつらう
二番

藤原為頼の旨

世にたあらぬ影はつらうもさかすまの影はつらう

相如

あけつらうの影はつらうもさかすまの影はつらう

四番

助忠

もろもろの影はつらうもさかすまの影はつらう

橘為義の旨

あまの影はつらうもさかすまの影はつらう

五番

為政

うらたけの影はつらうもさかすまの影はつらう

みちの旨

初末乃志多しうにあら言一松さくして老ふけり如

六番

新院宰相

引りし結いゆ我高藩業ありよと世いあひあり

赤深妻

和をら松さるもれりきり松じりあふ為松松

七番

赤時

友の松と梅いせくと秋とく一夢もたると海か

うた

日記もかきあせあり骨丸秋風

[Redacted]

八番

清少納言

よしとらうらむ我い昔ひふりあめてこぬ誰か

中宮大輔

いにへのたうれ初ハ橋さふられまにふりひあつ

九番

戒秀

あふりあ福こもねこも海草いあむこに烟さく

寛祐

あふりあふりあを記の伝人

[Redacted]

十番

兼隆

まれうらいらの流りもさふあせもに松松

はらけら

安東の心なきに里刻

十一番

為基入道

蘇むらにわらふとれたうさじい月浮世のふらや

なうたふ

さうふはあらぬ神もどるてまふたうのう

十二番

傍親

思ふ事いづかり費り志の落あされうのいぬや

為受

八重じろら志けまる寄れういふに人私志ぬれ

十三番

清汎僧初

悪は海いそす物波はまのりく回れ松乃林の初風

親教法橋

水のうへ舟林の心色とらほてかろこのむらに錦を

十四番

白糸中納言

善来てそくもさうらうふ里ハ花丁を寄れあう也

大宰大貳高遠

あふ坂の園乃志節と梅とほしうらうらうらうの東の弱

十五番

花山院御製

木のうらふたふあしあしのあう花とる人あたあぬ死

中務右具平親王

卷三十一

世より通じ物なり言も左是規も月小幾あり

右前後十五首款合依無款半不依按合

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

時代不同并合

以古今後撰拾遺等作者為左以後拾遺全集
詞苑十載新古今等作者為右

左方

右方

柿本人麿

大納言雅信

山邊赤人

法性寺入道前園白太政大臣

中納言家持

藤原清輔朝臣

小野篁

權中納言國信

中納言行平

皇太后文久後成